

「じゃがいものうち」通信 NO. 52 2007.3.30

～ 障害者と共に歩む仲間たち～

NPO法人「じゃがいものうち」

〒891-4404 鹿児島県熊毛郡屋久町尾之間136-6

Tel./Fax/0997-47-3588 E-mail/npo-jaga@po.minc.ne.jp

URL: <http://www.minc.ne.jp/npo-jaga> 代表 松田 正

『この子(人)のために』という落とし穴

私たち障害を持った子の親が犯しやすい間違いの一つに『この子のために』というのがあります。なにも障害のあるなしにかかりはないのですが、本人に何の相談をすることもなく、よかれと思って親が物事を決めてしまう。子ども思いの一面ではあるのですが、裏返せば親の考えの押しつけになっていることがあります。(このようなかかり方は、批判的な意味を込めてパターンリズムと呼ばれています。)

小さい頃からの“守ってやるべき子”として見る習慣でしょうか？

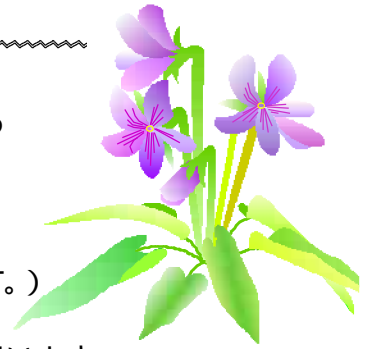
本来なら、その子(人)が望む生き方を、サポートする姿勢を持つことが大切だと思います。

生き方なんて言ってもあまりに漠然としてわかりにくいかも知れませんが、例えば本人が「今度の日曜日にはお魚祭りがあって行きたいからボランティアかヘルパーを頼みたい」といったことです。そんな日々の積み重ねが生き方です。あくまで決定するのは本人。それでないといつまでも自立できないと思います。

思うような判断が出来る・出来ないということで、完全には本人任せには出来ない場合もあるとは思いますが、それでも最終決定は本人に任せるべきだと思います。『この子のために』ではなく『この子の自立のために』。

ここで言う自立とは、結果の責任は自分で負うということです。間違っただけで済んだために一週間とか、一ヶ月間何かを我慢しなければならないこともあるでしょう。それが責任をとると言うことだと思います。そうすることにより初めて、その人らしい生き方が実現できるのだと思います。親を含め周りの人は、それをサポートするだけです。

これは何も親と子との問題だけではなく、医者と患者の関係も同じです。以前だと病気の専門家であるお医者さんが、すべて決めていたことも多かったように思います。今は「インフォームド・コンセント」といって病気や治療についての説明を受けて、患者が決定する場面も多くなりつつあります。当初は訴訟対策の側面があったようですが、今では理念として定着しつつあります。あくまで決定権は患者自身にあるということです、もちろん「先生にお任せします」という選択肢もありますが、障害者を取り巻く世界でも『この子のために』より一歩進んで『この子の自立のために』という理念が浸透することを願っています。そうやって初めて対等になれるんだと思います。(松田)



小規模多機能準備室より

何か事業をはじめるとき、本来はその事業に燃える人がいて、企画し、それに共感し、手伝うよ！という形で物事が進むと思います。「じゃがいものうち」の小規模多機能の場合ちょっと違う面があります。「会として作業所が必要だよね～この島に。」の時に「菖蒲学園」とか「麦の芽福祉会」から頂いたアドバイスはデイサービスの方が使い勝手良いよということでした。デイサービスなら、より富山型(小規模多機能)の方がこの島では、マッチしてるんじゃないかと。それで決まった小規模多機能への道。ちょっと変則ですが、選択としては間違いないと確信しています。今のところ2009年4月事業立ち上げを目標にし、それまで自主事業としてデイサービスをして、スキルアップしていこうという段階です。

皆さんの希望・提案をぜひともお寄せ下さい。大好きな屋久島ですっと暮らし続けるために。(松田)

総会のおしらせ

日時 5月27日(日) 10:00~3:00
場所 尾之間管理センター
詳細は後日連絡します。

午後は、お楽しみ会を行います。お楽しみに。
(一芸を披露したい方は、お早めにご連絡ください。)

3月5日(月)PM1:00より大原貞子さんのご厚意で布地の提供がありました、地域の有志の方から提供布地への寄付として総額7200円が集まりました。大原さんをはじめ、寄付をいただきました方々に感謝し、厚く御礼を申し上げます。これからも交流の機会を通じて少しでも多くの方々に障害者への理解がることを願います。ありがとうございました。

「おおぼろかい」

人生、たまには寄り道して「無駄」と思えそうな時間も大切にしてみませんか？
月に1回、場所とお菓子を用意してお待ちしてます。

次回 4月19日(木)13時30分~ 「じゃがいものうち」にて
参加費100円



鹿児島からのお便り

鹿児島に来て3年になりました。娘の寧香(しずか)も生まれ、清龍は幼稚園を卒園し小学生になります。「じゃがいものうち」で育てていただいたと思っています。ありがとうございました。自分とは言う、週三日「麦の芽福祉会」にお世話になっています。もっとゆっくりとしてモデル(模型)を作りたかったのですが、そうはいきません。またの機会に詳細をのせます。

短いですが、数年ぶりの原稿とします。(元通信編集者 日高広啓)

子持ちギャルの《ひとこま見聞録》

今年度最後の通信ですね。このコーナーばかりが、毎号とりとめのないことばかり書いていたのではないかと、反省しております。今年度も、我が家は『じゃがいものうち』の行事に、たくさん参加させていただきました。泥まみれの春、汗まみれの夏、エンターテイナーとしての秋(これは手をつなぐ育成会としてか...)、餅とり粉をかぶって年に1日だけ色白になれる冬。あ~今年も1年が過ぎていったのですね...。どれを思い起こしても、大変でした!だって、せっかくのお休みの日に、朝早く起きて家族のお弁当を作って、頭にタオルかぶって、長靴はいて、子どもをせかして、いざ労働に出陣しなければならないのですから。自分でも「物好きだなー」と感じることは正直に言っておりますよ。だけど、我が家の子どもたちは、『じゃがいものうち』に携わっているからこそ、たくさんのいい経験をさせてもらっているのです。畑でかけずり回り泥まみれになって遊んだり、お手伝いをしたり。サマーキャンプでは、手をつなぐ育成会のみんなと、キャンプファイヤーやトランプで夜遅くまで楽しみ、おしゃべりしながら雑魚寝します。年末の餅つき大会も、薪割りから始まり、餅米を蒸して搗いて丸めて、ひととおりの体験が、子どもながらにできるのです。しかも、そんな体験を通しながら、心のバリアフリーをごく自然に吸収していることでしょう。子どもたちの成長を会員のみなさんが見守ってくださいます。しかし、じつは子どもたちも大人たちを観察しているのでしょうか(笑)。そんな微笑ましい姿を見る度、親として幸せと感謝の気持ちをあたえられたように感じます。

皆さん本当にありがとう!そして来年度も頑張りましょう!

〔追伸〕うちの1番下の男の子(6歳になったばかり)にチックの症状が出てしまいました。今までも何度か出たことがあります。症状としては大変軽いのですが、この子のお兄ちゃんもそうでしたので、うちの子どもたちには、その気質が強いようです。気質のせいだとは思いますが、やはりこういう時、母親は自分のことを責めてしまうものなのですね...でもまあ、ゆったりかまえることにします。(鈴木裕子)

手をつなぐ育成会コーナー

2月28日、3月1日に「手をつなぐ育成会」で待望の鹿児島旅行に行きました。その時の様子を高見澤信裕さんに書いてもらいました。

「とんちんかん旅行記」

屋久島からトッピーに乗って、鹿児島の港に着きました。降りたところででっかい海賊船みたいな船（日本丸）がありました。僕は中が見たくてたまらなかつたけれども、時間がなかつたのであきらめました。記念に船の前で写真を撮りました。そして、レンタカー2台で障害者が働いている「花の木豆腐工房」へ出発しました。30分くらいで着きましたが、途中の鹿児島の町には色々お店がありました。ボウリング場や病院、レストランとか。ぼくはボウリング場へ行きたかったけど時間が無いのでダメだと言われました。「最初は行くって言ったのに。」

豆腐工場では、工場長が出てきて話しをしてくれました。そしてみんなに豆乳を飲ませてくれました。「おいしかった！」誰も残さないで“おいしい”と言っていました。そこで働く人達はなんか元気がなかつたように見えたんですが、本当はもくもくと仕事をされていたのです。帰りに豆腐と油揚げとプリンを買いました。お別れの時に千賀子さんがおみやげのタンカンをわたして、お礼を言って別れました。その次に平川動物園に行きました。ライオン、ジャガー、プレーリードッグ、月の輪熊、ワニ、白クマはカッコよかった。コアラもとってもかわいかった。そこでお昼ごはんを食べました。券を買い、僕は唐揚げ定食を食べました。まみよさんと遊佐さんも同じ唐揚げ定食でした。おみやげに買ったいろんな豆腐も食べました。浩二君と楯さんも豆腐をいっぱい食べて腹いっぱいになっていました。その後すぐとなりにあった遊園地に行きました。僕はまず飛行機に乗りましたがぜんぜんこわくありませんでした。とても楽しかったです。千賀子さんはメリーゴーランドに乗っていましたが、降りるときまたころんてしまいました。それから鹿児島中央駅までレンタカーを返しに行きました。レンタカー屋さんの前で「錦江湾旅館」のバスが待っていましたので、僕たちはそれに乗り、旅館へ行きました。部屋に入るともうフトンがしいてありました。いっぷくしてからダイエーが近かったので歩いていき、僕と浩二君はゲームソフトを買い、千賀子さん、清美さんは折り紙や毛糸を、利枝子さんはバックと筆箱、塗り絵を買っていました。お腹がすいてきたので旅館に帰りました。お風呂に入ってゆかたを着て夕御飯です。たくさんのごちそうがあり、おいしかったです。そして皆さんお待ちかねの『カラオケ大会』です。まず最初は僕です。曲は「道連れ」。若松さんの代



わりに歌いました。その後浩二君の「北国の春」利枝子さんは「アンコ椿は恋の花」を歌いました。そして最後も僕で森山直太郎の「桜」で締めました。部屋に戻ったらすぐに寝ました。翌朝は朝風呂に入り朝食を食べると、いよいよ県庁へ行きました。広いロビーで待っているとき伊藤知事がぼくの前を通りました。生の知事さんをはじめて見ました。部屋に案内され県の課長さんや係長さん、県議の方もいて話し合いをしました。帰り際、課長さんに「僕は毎週土曜日に喫茶の仕事をしていますので、ぜひコーヒーを飲みに来て下さい。」と言いました。県庁の高いビルにさよならをして僕達は鹿児島市立科学館へ歩いていきました。地震体験装置で震度5の体験や砂漠の50度の暑さと北極の-20度の寒さを体験しました。プラネタリウムを見たかったけど工事中でみれませんでした。せっかく楽しみにしてたのに残念でした。最後は鹿児島水族館です。ラッコやイルカの調教を見ることができました。ラッコは初めてだったので、うれしかったです。あとはトッピーに乗って屋久島に帰りました。

楽しかったけど来年はプラネタリウムにぜひ行ってきます。今年行けなかつたボウリング場も来年はいきたいです。行く為にたくさん働いて貯金します。

（高見澤信裕・聞き取り楯）

利
枝
子
さ
ん
作



行事報告

タンカンジュース作り

恒例となった「じゃがいものうち」のタンカンジュース作り。

1回目は2/20～2/22に終わり、2回目の最終日3/11(日)PM1時～4時迄、屋久島高校ボランティアグループ2年生の男女10名と町教育委員会の金子さんが加勢に来てくれました。作業に入る前に担当者から「この仕事は単なる作業ではなく、ハンディーをもっている人々の社会参加の場である事を理解してほしい。」旨の話の後、マスク、手袋、前掛け、帽子をつけて作業開始。皮切り、皮むきを主にタンカンしぼりやビン詰め等一連の作業も体験してもらいました。普段、何気なく手に取る缶やビンに入った飲み物が今日の作業ではハンディーをもった人も含め大勢の人の力で出来る事がわかったとの感想が述べられました。高校生たちは、日頃、老人ホームや保育園でも活動しているとの事で、昨夏は「じゃがいものうち」のキャンプにも参加してくださいました。今回は車椅子の寄贈を受けようと皆に呼びかけ、約3ヶ月かけて集めたという沢山のプルトップを持参され「じゃがいものうちに引き継いで欲しい。」との事でプレゼントをして下さいました。作業のお礼に鹿島浩二さんと高見澤信裕さんが“ものまね”を披露し、おみやげにまだ温かいタンカンジュースを1本ずつ差し上げました。

ジュース作りの活動がこれからの活動に生かされ、更に社会へ出てもこの延長線が長く伸びてくれることを願っております。このジュース作りは、「しゃくなげ未来館」からの参加者、「手をつなぐ育成会」との合同で行われ合計500mlビン詰め3948本、加工用一斗缶14缶が出来上がりました。本当にご苦労様でした。(四宮)

高校生クラブから引き継いだプルトップの回収を行っていますので、「じゃがいものうち」までお持ち下さい。ご賛同の方はご協力の程よろしくお願い致します。



タンカンジュース作りに応援隊！

私たち屋久町高校生クラブ“こだま”は、3年前の先輩方が立ち上げてくれたボランティアグループです(・・)。今は2年生14名で高校生ならではの活動をしています。昨年度は屋久町夏祭りで“まるりん”の中に入ったり、ジュニアリーダー初級の研修会や成人式のスタッフなどがありました。

たくさんの活動の中でも、全員参加ができた保育園訪問は子供たちと関わり、有意義な活動でした。また、11日に行われた「じゃがいものうち」でのたんかんジュース作りは、想像していたよりも大変な作業でしたが貴重な体験ができました。しかし、最後にたくさんお誉めの言葉をいただき、自信がつき、とても良かったです。これからも、なにか高校生の若い力を必要とするときはいつでも声をかけて下さい。よろしくお願い致します。(^^)/
(高校生クラブ“こだま” 松本)



2007年 新作タンカンジュース 発売中！

屋久島の水と太陽が育てたタンカンを、私達が真心こめて作りました。

1本800円(税込) 地方発送致します。

じゃがいも掘り

このところの屋久島は天候不順で、楽しみにしていたじゃがいも掘りの2月25日は雨で順延、一週間後の3月4日の日曜日にお手伝いに行きました。大分前のことですが、たまたま2月に屋久島へ来たときに参加したじゃがいも掘りの日は大変暖かくTシャツで作業したことを今でもはっきりと覚えていて、埼玉と比べるとやはり屋久島は温暖でいいところだなあと思っていました。

さて、今年のじゃがいも掘りも沢山の会員の方達がいらっしゃって、和気藹々と楽しく作業が始まりましたが、すぐにあちこちで黒い斑点状の今まで見たこともないじゃがいもが沢山出てきました。聞けば「そうか病」ということで、原因は畑に有機物が残った状態で、種芋を植え付けたことによるようなことを松田さんがおっしゃっていましたが、いずれにしても食べるのは全く問題ないとのことでした。気を取り直して精を出し、午前中に下の畑全部と上の段の畑が半分くらい終えたところで、所要のため午後の作業は失礼させていただきました。

夕方、参加された畑下さんが、拙宅にじゃがいもを沢山持って来てくださり、以来、我が家の食卓にはじゃがいもサラダ、茹でじゃがいも、コロケなどが頻繁に出てくるようになりました。そうか病といえども、やはりそこは新ジャガ、大変美味しくいただいています。

来年はよいじゃがいもが沢山収穫できるのを期待して、また参加させていただきたいと思います。（吉田克雄）



“じゃがいも”のお知らせ

掘り取り当日は、1才のそらみちゃんから高齢者の方まで幅広く参加頂きありがとうございました。今年畑の準備の遅れが大きな原因だと思われるソウカ病を沢山出してしまいました。ゴメンナサイ。病気の軽いものは、昨年も出荷した『くまもと有機の会』に買って頂くことが出来ました。68箱（昨年は310箱、10kg詰め@1,800円）出荷し、出荷できないB品36キャリアーは、約20kg@1,000円で販売しました。病気の重いものが30キャリアー程ありました。（松田）

ウコン、ガジュツ掘り（3月26日 月曜日）

雨で順延となったウコン・ガジュツ掘り。前日とはうって変わった好天に恵まれ、モッコム岳の下、気持ちの良い汗を流しました。上屋久町のボランティアグループ「つわの葉会」（代表：寺田和子さん）のメンバー12人が、プロの腕前ながら、我が会員を終始圧倒して、予定より2時間も早く作業を終えることが出来ました。「つわの葉会」は28年前に誕生。お年寄りの給食づくりからスタートしたとのことですが、当時はまだ介護保険もなく、老人ホームも不足していたので、介護も手がけたそうです。今は老人ホームやデイサービス、グループホームなど沢山の活動の一つとして、ウコン・ガジュツ掘りに駆けつけて下さっている方々です。80才を迎える寺田代表をはじめ、メンバーの高齢化で役員のなり手がなく、活動の継続が危ぶまれているとの事ですが、「今後も声がかかれば加勢に来ます。」とのありがたいお言葉を頂きました。作業が早く終わったので高見澤信裕さんが“ものまね”をプレゼントした後、「つわの葉会」の方々が、見事な歌と踊りを披露してくれました。「じゃがいものうち」からも信裕さんと咲美さんが飛び入りし、楽しい雰囲気の内、またの交流を約束して散会しました。「毎年のこの作業がとても楽しみなんですよ。」といわれた言葉がとても嬉しかったです。（四宮）



三好春樹講演会『新しい介護を求めて in 屋久島（パート ）』のお知らせ

第1部は事前申し込みが必要です。事業所ごとに申し込みますので4月28日までに喫茶に連絡下さい。

開催日：2007年6月30日（日） 主催：屋久島地区介護保険連絡協議会など

第1部：新しいケアをはじめよう（10：00～12：30，安房公民館）主に介護従事者対象

第2部：呆けも寝たきりも怖くない（13：45～16：00，屋久町総合センター）

新年度の会費とボランティア保険代の納入についてのお願い

会員の皆様にはお変わりなくお越しの事と存じます。

日頃より当会の活動につきましては、ご理解とご協力を頂き厚くお礼申し上げます。今年度も“じゃがいものおうち通信”で報告させて頂いたいろいろな活動を行う事が出来たのも、皆様からの貴重な浄財が大きな柱となっております。つきましては、新年度も引き続きご支援をお願いしたく、会費とボランティア保険代納入の振込用紙を同封させていただきました。何かと出費の多い昨今で恐縮ですが、4月15日迄にお振り込み頂くか、「じゃがいものおうち」へお届け下さいますようお願い致します。

尚、会費の詳細については、同封の申込書をご参照ください。

会員入会申込書について

社会の構成要素の一つとしてNPO法人も大きく注目されており、いろんな機関からのアンケート調査が来ています。その項目として会員数や年齢構成など問われることが多くあり、会としてもきっちり把握しておくことが必要な場面が多くなってきました。個人情報そのまま公開することはありませんので、ご協力をお願いします。ついながら、会の活性化のために、得意技を持っておられる方、例えばエクセルが使えるとか、ホームページ作りに関心があるとか、活動のお手伝いをしたいなど、ぜひとも自己紹介欄に記入してお寄せ下さい。あなたのかかわり方で、会も生きてきます。

喫茶コーナー



利枝子さん月曜日に曜日変更

いままで金曜日に喫茶のお手伝いをしていた日高利枝子さんが月曜日にかわりました。

これで喫茶は 月：日高典子・日高利枝子

火：日高典子

水：松本活栄

木：松本活栄・鹿島浩二

金：畑下和子

土：畑下和子・高見澤信裕

というスタッフで、サービスに努めます。

利枝子さん大ハッスル(3月12日)

通りがかりの地元の方に利枝子さんは原の方言で「よっていたて、チャーも飲んでいかんかよ」(寄っていってお茶でも飲んで行きませんか)と呼びかけて、気軽に入って頂きました。利枝子さんはお茶のサービスや湯のみ茶碗洗いをしたり、テーブルに野の花をつんできて、飾ったりしてあっという間に初日が終わりました。(日高典子)

喫茶のカウンターに4種類のファイルが置いてあります。

1 じゃがいものおうちニュース

3 小規模多機能準備室ニュース

2 理事会報告

4 福祉情報NOW

時間のあるときは目を通して見て下さい。今の「じゃがいものおうち」の動きがよくわかります。(松本)

感謝録 (2月9日~3月28日 順不同 敬称略)

高見澤義男 鈴木裕子 岸トモ子 福島史子 小笠原勝弘 蓑田理子 吉田照子 谷本正和 柴堯子

日高一昌 日高典子 日高信一 日高二三男 笹川栄一 池上純久 和田洋一 尾之間有志匿名(2件)

「ふるさと市場」「じゃがいものおうち」の募金箱に多くの募金を頂きました。ありがとうございました。

編集後記

2006年度最後の通信、52号が何とか発行出来ました。年5号発行の目標が達成されて通信部一同喜んでいいます。島の内外の会員さんと、直接活動に参加されなくとも気持ちはいつも同じ所にありたい、その橋渡しが通信の役割であります。また広く、深く、島の福祉を伝える役割もあります。そんな大切な役を十分果たせたとは言えませんが、来年度もよりよい通信を発行して行きたいです。(楯)